近ごろ巷（ちまた）に流行るもの

純和風♡外国人客ら熱視線

河内長野・昭和24年創業の旅館「あまみ温泉南天苑」

大阪府河内長野市の南部、ほどなく和歌山県という奥まった地にある温泉宿が今、外国人観光客の注目を集めている。昭和24年創業の旅館「あまみ温泉南天苑（なんてんえん）」。母屋は東京駅丸の内駅舎や日本銀行本店を手がけた日本を代表する建築家・辰野金吾が設計し、移築された純和風建築。築100年以上の歴史を誇る趣深い建物と、周辺に広がるのどかな里山風景が外国人の心をつかんでいるようだ。

河内長野市史などによると、天見（あまみ）温泉は南海電鉄などが「有馬温泉と肩を並べる温泉郷にしよう」と、昭和初期から開発を始めた。数軒の宿が建てられたが、「南天苑」の女将（おかみ）、山崎友起子さん(57)が嫁いできた昭和58年には、今も続くこの宿1軒になっていた。

そんな南天苑に外国人観光客の〝熱視線〟が集まり始めたのは、平成26年秋ごろから。ツイッターやフェイスブックなどソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を通じた口コミで評判が高まると、26年に約2160人だった外国人の宿泊客数は、27年には約2・5倍の約5350人に急増。その国籍は実に47カ国にも上った。

人気の秘密について、「純和風を徹底させてきた点にあるのでは」と山崎さん。木造2階建ての母屋は、日本建築界の重鎮・辰野金吾（1854～1919年）が手がけた大正2年の建築で、国の登録有形文化財にも指定されており、数寄屋造りの内装は茶室建築を思わせる「わび・さび」の雰囲気をたたえる。

もともとこの建物は、堺市の大浜公園に大正元年にできた遊技場や少女歌劇、銭湯などを組み合わせた娯楽保養施設「大濱潮湯（おおはましおゆ）」の別館として翌2年に完成。昭和10年、天見温泉開発に伴って現在の地に移築され、しばらくは大阪の料亭「松蟲花壇（まつむしかだん）」（廃業）の旅館「松蟲別館」（同）として運営されていたという歴史を持つ。その後、24年に現在の南天苑が引き継いだ。

現在、定員2～8人の部屋が14あり、庭園に面した部屋からはカワセミやカモなど多くの野鳥が姿を見せる瓢簞（ひょうたん）形の池や、金剛・葛城山系を望むことができる。春の桜や秋の紅葉の風景は絶品という。

また、山に囲まれ水田が広がる宿周辺の風景も魅力の一つ。外国人の多くが、そんなのどかな雰囲気に魅了されるという。あるスイス人男性の宿泊客は予定を急遽（きゅうきょ）、2泊から4泊に延長。遠くへ出かけることはせず、周辺の散策を楽しんだ後は宿で夜遅くまで読書―という日々を過ごした。

さらに、宿から徒歩1、2分の南海高野線天見駅から大阪市中心部へ約40分、外国人に人気が高い高野山へも最速約1時間という交通アクセスの良さも支持される理由のようだ。

料理にもこだわりを見せる。地元産のシイタケに河内産のカモ、京都の料亭にも並ぶ富田林産のエビイモなど、四季折々の食材で客をもてなす。

オランダから訪れた会社社長、デニス・クレインさん(36)夫妻は宿で2泊し、高野山をめぐった。デニスさんは「シティーホテルにはない大きな部屋と美しい庭がすてき。日本の伝統的な雰囲気の中、ゆったりと流れる時間や料理を楽しめた」と絶賛する。

山崎さんは「外国の方々が日本の伝統や文化など『純和風』の価値を認めてくださるのは非常にありがたい。これからも、建物や宿の持つ伝統的な雰囲気を守っていきたい」と語った。

文と写真 藤崎真生

「南天苑」で食事を楽しむ外国人旅行客。女将の山崎友起子さん（左）は「外国の方々が日本の伝統を認めてくださるのはとてもありがたい」と話す ＝大阪府河内長野市

「南天苑」の入り口。母屋は建築家・辰野金吾の設計による大正2年の建築で、堺市にあったものを移築した

デスクから

東海道、北国海道の結節点として交通の要衝だった大津は、実は鉄道との縁も深い。明治13年、東海道線の大津―京都開通に伴って完成した旧逢坂山トンネル（約665メートル）は、日本人だけの手で初めて造られた鉄道トンネル。大津市内の国道脇にある東口は鉄道記念物に指定され、往時の姿を伝える。大津―長浜では、東海道線の全通まで国内初の鉄道連絡船が運航されていた。

大津市歴史博物館の学芸員、木津勝さんは、地域の人も忘れかけたこれらの歴史に着目し、大津と鉄道をテーマにした企画展を開催、人気を得ている。「地域を知るきっかけになれば」と話す。

江戸期には琵琶湖の水運を活用して北陸方面の物資が集積され、大津には諸藩の蔵屋敷が立ち並んだ。商人町が形成され、東海道五十三次で最大規模の宿場とされた。

時は過ぎ、現在の玄関口JR大津駅。「県庁所在地の駅と思えない寂しさ」と話題にされてきたが、今秋の完成予定で改修工事が進められている。「通りすがる駅から立ち寄る駅」を目指すという。にぎわいを取り戻すきっかけになるか、注目していきたい。 （大津支局 内山智彦）